

2024年1月16日
株式会社毎日放送

各位

社長記者会見を開催しました

本日、当社代表取締役社長の虫明洋一と、MBS メディアホールディングス代表取締役社長の高山将行が出席し、記者会見を実施しました。会見でのあいさつ（概要）は、以下の通りです。

むしあきよういち

【毎日放送 虫明洋一社長あいさつ】

能登半島を震源とする地震、翌日の JAL 機と海保機の事故と、大変な正月になりましたが、今年も宜しくお願いします。元日に起きたことを踏まえて、放送局としての使命をもう一度見直す年のスタートになったと思います。国民の生命、財産、暮らしを守るという災害報道は、我々に課せられた大変重い使命です。毎日放送、系列のJNNでは、発生直後から特別番組を編成し、我が社からも一番多い時には 20 人を超えるスタッフが現地に入って取材、報道の支援をしています。JNNの一員としての使命を果たしたいと思っています。亡くなられた方々にお悔やみ申し上げますとともに、腰を据えて報道していきたいと思っています。

1 月 4 日の我が社の年賀式で話したことを補足します。阪神タイガースのことです。日本一が決まった後、球団主催の祝賀会があり、お招きいただきました。その際、岡田監督が「パレードで沿道の方から『ありがとう』と声をかけられて大いに戸惑った。ありがとうと言わなければいけないのは応援してもらっている僕らなのに」とおっしゃいました。この言葉が印象に残り大事だと思ひ、社員には、自分たちの会社に置き換えて、番組やコンテンツを楽しんでくれる皆さんに対し、出し手、作り手として、「ありがとう」という気持ちを忘れてはいけないと言いました。昨年、WBC から始まって数多くの「世界」、「ワールド」とついたスポーツイベントが系列以外でも多く放送されて、高い視聴率を出しました。祭典は、その時その時視聴率が良くて大騒ぎできますが、大切なのは日常だという話もしました。日常を伝えることを大事にすればそれをベースにして大きいお祭りに生かすことができる。そういう意識を持っていこうと言いました。

たかやまさゆき

【MBS メディアホールディングス 高山将行社長あいさつ】

能登半島の震災。羽田空港の事故は、大変なショックな、未曾有のもので、何より亡くなった方々にお見舞いを申し上げます。29 年前の阪神・淡路大震災のことを彷彿とさせます。冬の震災で、水も電気もない、家屋が壊れている状況には既視感があります。大変過酷な状況だと思います。

私は、グループ向けの年賀式で、「アップデート」というテーマで話をしました。4 年ぶり、コロナの制約の多い期間が終わって、色々なことが大きく変わり、業界も変わっている中、グループの“アップデート”はどうかこうにかやっているといるかということです。大阪、関西を中心に、日本、全国にということでコンテンツをお届けしてきましたし、世界にも既に進出していますが、これからも“アップデート”していかなければいけないという意識をさらにもっていこうと。さらに、大手芸能事務所の問題に端を発して、足元をしっかりとしないといけないということで、1 月 1 日に「MBSグループ人権方針」を制定しました。「絵空事になってはいけない。一人一人の行動に落とし込まなければならない。トップ自ら口にせよ」と思っています。私たちは変化とか革新とかいう言葉をすぐに使いますが、そうではなくて、せめて最新の状態にすることが必要だと考えています。

以上

本件問い合わせ先：広報部